

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571800186		
法人名	社会福祉法人報謝会		
事業所名	グループホーム ミューズの空 高原	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県西諸県郡高原町大字蒲牟田7351番地2		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果市町村受理日	平成25年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosvCd=4571800186-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日を、自宅に居るようにのんびりと過ごして頂けるような環境作りを心掛けています。地域化に力を入れる為、青空カフェをオープンし、誰でも気軽に立ち寄れる雰囲気作りを目指している。
職員が、年に数回の道路清掃奉仕作業を行うようになり、地元の方との交流の機会も増えてきた。
法人内のSTさんによる音楽レクリエーションが月に2回開催され、皆様楽しまれている。2ヶ月に1回は野外活動を取り入れ、気分転換を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

先回の外部評価で「次のステップに向けて期待したい内容」が5項目あり、それを目標達成計画に掲げ改善につなげてきている。職員体制に無理があるなかでも前向きに取り組む、それが介護の基本に向きあう結果となり、具体的な方法を取れるようになっていく。3つのユニットの管理者たちの結束は強く、また、職員たちも管理者たちに、そして互いに協力を惜しまず補い合っている。施設ではなく、地域密着型サービスのグループホームであるという位置づけを再認識したことも、取り組み方に影響を与えてきている。車いすの男性利用者がひざではいながら草取りを始められ、今度は野菜を植えたいと意欲的で、収穫の季節を楽しみにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所のミューズの空 高原理念があり、毎朝、朝礼にて唱和を行って実践つなげている。		「地域とのかかわりを大切に」を理念に含めている。先回の外部評価以後、職員と共に理念を作成し、意義の理解を共有している。事業所から地域へのかかわりも増えてきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	最近、青空カフェをオープンし、近所の方がカフェに遊びに来て頂ける取り組みを行っています。地域のゴミ拾い奉仕活動を行っており、交流をしている。		3ユニットに囲まれた中庭の広さを有効活用した、職員の発案による青空カフェを開いている。ゴミ拾いも管理者が区長に会いに行き、情報をもらい参加するようになっている。地区の「お話ボランティア」が利用者との会話に訪れる機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けての取り組みは行われておらず、できていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて出た意見を、サービス向上に反映させている。		定期的に関われており、主に事業所からの報告と質問がなされているが、双方向的な意見交換の場とはなっていない現状である。	運営推進会議の重要性を意識して、議題設定等に工夫をし、活発な意見交換の場にして、それらを運営や介護に生かしていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営や現場の実情などを伝える機会があり、課題解決に向けた話し合いを共に取り組んでいる。		町の担当課に地域包括支援センターがあり、管理者が出向いたり、また、担当課からホームへの来訪があるなど、密接なかかわりがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っておらず、中庭に自由に行くことが出来るが、外柵は法人の方針により撤去できていない。		身体拘束に関して、管理者および職員は理解している。法人の意向として、利用者安全優先から門扉の開錠はなされていない。管理者は、理解を得るための話し合いを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は、高齢者虐待防止関連法について職員会議にて学び、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1号館		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護について学ぶ機会があるが、職員は学ぶ機会がない。権利擁護を活用する機会がまだない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解と納得を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、面会時に意見を言いやすい環境を作っており、意見を運営に反映させている。		職員は家族の意見を聞き、職員間で共有して支援につなげている。即応支援に加え、家族の意見を十分に考慮して原因を分析することにより、職員の対応の変化につながっている。役場の担当課への苦情も、真剣に受け止めて改善を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を言いやすい環境を作っており、運営に反映させている。		管理者は、朝礼や職員会議などで意見や要望を聞いている。それ以外でも話しやすい関係が出来ており、可能な限りの対応をしている。職員もまた、職員体制の状況を理解しているので協力的である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、勤務状況を把握できておらず、向上心を持って働ける配慮・対応が出来ていない。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握して、法人内・外の研修を受ける機会を設け、トレーニングを図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西ブロック研修会にて、他施設の職員と交流する機会を設けており、サービスの質向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期にしっかり要望などに耳を傾け、安心を確保するための関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安なこと、困っていること、要望などに耳を傾け、信頼関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が必要としている支援を見極め、事業所としてできる限りの対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時々昔の事などを教えて頂き学んでいるが、普段は一方的な介護を行う立場になっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしており、良い関係を築けるように、毎月写真付きの手紙を送っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に会えるように、ドライブ支援を行っている。	住んでいた家を訪ねたり、長年営業している町の百貨店に買い物に行くなどの支援をしている。家族が買い物等に誘うこともある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握していますが、支え合えるような関係作りは出来ていない状態。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の視線にたつて意見を出し合い、話し合いを行っている。		ケアチェック表の充実により、利用者への理解が深まり、寄り添う機会が増え、会話も成立し、利用者への落ち着きにつながっている。ケアプランを充実させることを意識して、その人にあったサービスを提供する姿勢を持つようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人に馴染みの暮らし方を聴き、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方になっていない。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームにて、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合いを行い、家族、必要な関係者と話し合い、意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。		各部署単位での話し合い、職員全員による意見を取り入れ、支援経過の内容を考慮して、モニタリングを月1回行っている。6か月の定期的な見直しと計画書の作成に加え、状況の変化に即応しての計画書の変更作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートにてケアの実践、結果、気づきや工夫を連絡して、職員間で情報を共有しながら実践を行い、介護計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの把握には努めているが、サービスの多機能化には取り組んでいない。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回、地域の散髪屋が散髪に来てくんだり、月1~2回医師の往診があり、地域資源との協働をしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、納得して頂いた医師による継続的な医療が受けられるように支援している。	利用者それぞれの掛かりつけ医受診である。協力医と他の医院の医師の往診がある。受診は職員が同行し、状況の説明を行っている。家族同行の受診の場合も、職員も付き添って医師に状況を報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきを看護師、医師に連絡と相談を行い、適切な看護が受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院関係者と情報交換をまめにし、短期間で治療を行い、スムーズに退院できるように支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族に連絡・話し合いを行い、かかりつけ医に意向を確認して対応方針の共有に取り組んでいる。	看取りの指針があり、入居時から説明を行っている。重度化の変化に応じての話し合いも行っている。掛かりつけ医は24時間対応で、看取りを行う体制が出来ており、実際に看取りの支援がなされている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行っていないが、救急法の研修がある時は、積極的に参加するように努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、避難方法を学んでいる。	消防署立ち会いの下、避難訓練を実施しており、夜間を想定しての訓練も行われている。月1回の防災訓練もある。運営推進会議に、地区の消防団長を呼んでの講話が予定されている。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ている職員と出来ていない職員がいるので、勉強会を行ったり、職員会議にて話し合いを行うことで、尊重できるように努めている。		言葉かけ、特に冗談が利用者にふさわしいものでないことが一部あるので、管理者は絶えず指導をしている。他の職員は心がけており、利用者それぞれに応じた声かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、意思表示が出来る方は希望に添えるが、意思表示出来ない人は働きかけが不十分。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは、業務が中心になりがちで、一人ひとりのペースで生活が出来ていない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添った服を着て頂き、その人らしい身だしなみ出来るように支援しているが、数人である。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度の方ばかりで、一緒に食事の準備が出来ていない。		職員も同じメニューと一緒に食べ、話が弾む楽しい食事時間となるようにしている。後片づけに加わる利用者もいる。敷地内の別施設で作られた料理が朝食以外に提供されるが、ホームの厨房で味付けを変えたり、利用者個々にあった一品を添えたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御利用者様の食べ物や飲み物の好みと食べる量を把握しており、習慣に応じた支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力を把握し、口腔ケアを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴え時にトイレ誘導行っているが、数人であるため、全体的にみると不十分である。		2つのユニットは自立している方が多く、時間によって声かけを行っている。一つのユニットに支援の必要な利用者が多く、自分での排せつは難しいので、利用者に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方への対応は下剤を使用しており、工夫や運動への働きかけは出来ていない。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、ユニットが決めた曜日になっていますが、その日以外で入浴希望時は、個別の入浴を行っている。		週3回の入浴が行われている。利用者の体調、状態により、それ以外の日に入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息希望時は、居室へ案内して休んで頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法と用量について理解しており、体調不良時には医務と医師に連絡を行い連携をとっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品を楽しめるように買い物支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援はできていませんが、家族と本人が希望されるときは、出かけられるように支援を行っている。		広い中庭での散歩、買い物、家族との外出などが行われている。青空カフェは、外に出る気分転換の機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいと希望される方がいないが、小口を預かっており、いつでも使えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と電話が出来るように、希望時に職員が支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感と季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるように工夫している。	職員が稲穂を持ってきて、利用者が触れる位置に飾ったり、寒くなったので高床の畳の間には脚を下ろせるこたつが準備されている。過度の装飾はなく、時計や日付が利用者に分かるように配置されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置して、2~3人で過ごせる憩いの場提供を行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を居室内に設置して、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	居室担当の職員が家族や利用者と話し合って衣替えをしている。家族に、利用者が使いやすいように、居室の中を変えてよいことを伝えている。シンプルな部屋から色々な物が配置されている部屋まで、利用者の状態、家族の意向によってさまざまである。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かすために、手すりを設置したり、ポータブルトイレを設置し、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。			